

ご挨拶

(一社) 東北地質調査業協会 理事長 **奥山 清春**



昨年は年号が平成から令和と代わり時代の節目を感じました。皆様には、幸多き年をお迎えのこととお喜び申し上げます。昨年中は格別のお引き立てを賜り、誠にありがとうございました。本年も引き続きご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

さて今年の冬は、いつもの年始の様相とは全く違い、各地とも雪不足といった例を見ない状況です。生活者視点でとらえると雪かき等重労働が少なく生活しやすいという一面がある一方、東北各地域の特色である雪に関わる催しも中止や延期、縮小といったことにより観光面や建設業への影響は非常に大きな問題となっております。これからはこういったある意味、異常気象といった状況も覚悟する気象状況が今後も継続的に起こるのか、と非常に考えさせられます。

このような状況も少なからず関係があ

るとおもいますが、毎年大きな災害が日本各地で起き、昨年も10月には台風19号により東北地方に甚大なる被害が発生しました。協会も災害協定に基づき対応させていただき、対応いただきました企業の皆様に改めて御礼申し上げます。これから本格的復旧工事が始まるので会員の皆様には十分安全に気を付けていただき、1日でも早い復旧を望みます。

又昨年は東北地質調査業協会60周年ということで国土交通省 東北地方整備局様、林野庁東北森林管理局様、宮城県様、(一社) 全国地質調査業協会連合会様はじめ多くの来賓の皆様、会員企業の皆様にご出席賜り、改めまして御礼申し上げます。実行委員会、事務局、また各委員会の皆様、大変ご苦勞様でした。全地連表彰、協会表彰など10年、一つの区切りで開催できましたことを改めまして皆様に感謝申し上げます。

.....

働き方改革での週休二日制などの上、改正品確法が昨年成立し、生産性の向上、工期の平準化など、我々地質調査業が明確に法律の対象となった年でもあります。今年はその成果を示す年となるでしょう。ぜひ業界を通じて、協会一丸となってより一層前進するよう取り組んでまいりたいと思います。

最後になりますが今年は十二支の始まりの子年です。

ねずみは繁栄の象徴などいろいろな格言等ありますが、始まりの年ということで心機一転、新たなスタートという気持ちで、また東京オリンピック等賑やかな年となると思いますが、いつ起こるか分からない災害等の準備も常に心に留め、会員皆様にとって良い年となるよう祈念いたします。

改めて、協会員の皆様方、本年度もよろしく願い申し上げます。